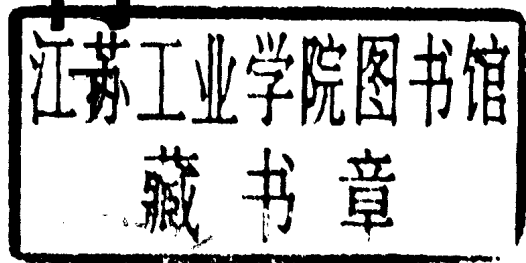


井上靖歴史紀行文集 第三卷

シルクロード行



岩波書店

井上靖歴史紀行文集 第三卷
第三回配本(全四卷)

一九九二年三月一〇日 第一刷発行 ©

定価四二〇〇円

(本体四〇七八円)

著 者 井 上 靖

発 行 者 安 江 良 介

〒101-02 東京都千代田区一ツ橋二五
五 鐵 岩 波 書 店

電話 〇三三六五四二二(案内)

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan
ISBN 4-00-004188-6

目 次

詩 三編

残 照

三

天 池

四

モンゴル人

六

シルクロードへの夢

シルクロードへの夢

一〇

西域の山河

一四

シルクロードの風と水と砂と

一八

シルクロード地帯を訪ねて

二五

謎の国楼蘭

謎の国楼蘭

五四

河西回廊の旅

六五

玉門関、陽関を訪ねる

七一

天山の麓の国

西域の旅から

八二

トルファン街道

八七

法顕の旅

九二

ホータンを訪ねる

九六

漢代且末国の故地

九九

天山の麓の国

一〇五

西トルキスタンの旅

西トルキスタンの旅

一二三

「大宛」へ寄せる夢——ロシア旅行で訪れたい

一二八

フェルガナ盆地

一三一

アム・ダリヤ下流

一四八

幻覚の街ヒワにて

一六三

川の話

一六五

沙漠の町アシュハバード

一七一

オアシスの町

ピヤンジケント

一八〇

タシケント

二〇〇

ブハラ

二一五

サマルカンド

二三四

ドシャンベ

二六〇

アシュハバード

二六五

イスラムの旅

オリエント古代遺跡を訪ねて

二七四

メソポタミア

三〇一

ナイルの流れ——エジプトの旅

三〇四

ノアの洪水地帯——イラクの旅

三二一

フンザ、ナガールの旅

往古の仏教都市ギルギット

三三〇

大斜面の町フンザ

三三九

ナガールの少年

三三八

弓と矢の国フンザ

三四九

インダス溪谷を下る

三五八

解題(福田宏年)

出典一覧

詩
三
編

残 照

一日の終りに夕暮がやって来るように、——と、そんな
思いが俺を捉えた。落日の残照で真赤に燃えた土屋の集
落を通過した時だった。一日の終りに夕暮がやって来る
ように、俺の生涯にもいま夕暮が来ようとしている。無
人の路地で驢馬が燃え、無人の十字路で駱駝が燃えてい
る。くるまは再び沙漠へはいってゆく。沙漠もまた赤く
燃えている。

天 池

ウルムチからジープで二時間、天山山脈東部の名山ボグド・オラの山頂に、天池と呼ばれる小さい湖がある。海拔二〇〇〇メートル、四方山に包まれ、しんとしたたたずまいである。長さ四キロ、幅一・五キロ、深さ一五〇メートル、透明度は高い。この天池は西王母の浴場、少し降ったところに小天池があるが、その方は西王母の足の洗い場ということになっている。私は天池にはボツティチェルリの貝殻の上に立ったヴィーナスを配し、小

天池にはアングルの泉の岸に立つ裸女を配した。そして心落着いて、湖畔の林の中を歩いた。突如雷鳴が轟き、豪雨が襲って来たのは、西王母の妬心の為せるわざであったろうか。

モンゴル人

サマルカンドの市場には雑多な血の入り混じった男女がひしめいていた。私は同行のウズベク人の若い教師を煩わして、その口から出る言葉を次々にノートに記して行った。——あれはモンゴル系のアラブ。こちらはウズベクとタジクの混血。向うの女たちはタジク系のトルクメン。こちらの一団はイランとタタール、それにチベットの血が少々。

私は途中で自分の作業を打きった。際限のない仕事であ

ることに気付いたからだ。併し、本当を言えば、私が自分の仕事を放棄したのは、純粹のモンゴルの大男にぶつかったためだ。その男は頭を剃り、長靴を履き、カンガルーのように子供を白布で前に吊っていた。彼だけが、その巨体に似ず、肩身狭く憂鬱げで、淋しそうに見えた。

シルクロードへの夢